

2025年度 講義要綱

科 目	必修 コミュニケーションⅡ 講義	講 師	石原 成	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)前期3コマ:後期1コマ 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子) 			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 4/9 オリエンテーション 2 4/16 クラス活動(1) 3 4/23 【認定絵本士養成講座科目】(1)「絵本と出会う④」担当:関本練 4 5/7 就職に向けて(1) 5 5/14 【認定絵本士養成講座科目】(2)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学 6 5/21 就職に向けて(2) 7 5/28 【認定絵本士養成講座科目】(3)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸世 課題提出 8 6/4 就職に向けて(3) オンライン 9 6/11 クラス活動(2) 10 6/18 クラス活動(3) 11 6/25 クラス活動(4) オンライン 12 7/2 就職に向けて(4) 13 7/9 就職に向けて(5) 14 7/16 クラス活動(5) 15 7/23 クラス活動(6) 前期終了 16 9/22 就職に向けて(6) 後期開始 17 9/29 クラス活動(7) 18 10/6 クラス活動(8) オンライン 19 10/13 就職に向けて(7) 20 10/20 就職に向けて(8) 21 10/27 就職に向けて(9) 22 11/3 クラス活動(9) 23 11/10 クラス活動(10) 24 11/17 クラス活動(11) オンライン 25 11/24 【認定絵本士養成講座科目】(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子 26 12/1 就職に向けて(10) 27 12/8 就職に向けて(11) 28 12/15 就職に向けて(12) 29 1/19 クラス活動(12) 30 1/26 クラス活動(13)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	石原 成:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○なかむらしんいちろう:講座責任者 ○鈴木八重子:前講座責任者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科目	保育と外国語	必修 講義	講師	金藤 明美
授業概要	保育現場で使える幼児への語り掛け英語表現、そして幼児と一緒に楽しめる英語の歌や様々な活動、さらには初対面での基本的な英会話表現などを身に付ける。机上学習では学べない表情やジェスチャーなどの非言語も意識した体験と練習を通してコミュニケーション力も高める。加えて英語にまつわる有益情報シェアをすることで、英語界への興味を深める。			
授業目標	1. 保育現場で使う基本的な英会話表現を繰り返し練習することで、表情豊かで自然な発話を身に付ける。さらに幼児と一緒に歌える英語の歌や様々な活動を体験をしながら学び、それらを保育現場で生かす。 2. 初対面の英語表現を通して、コミュニケーションの大切さを楽しみながら学ぶ。			
到達目標1	・保育現場で使える必要最低限の幼児への語り掛ける英語表現を習得する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験【50点】	
到達目標2	・初対面英会話の習得ができる。 ・自己紹介・Show and Tell・絵本の読み聞かせの体験ができる。 ・非言語によるコミュニケーションの体験ができる。 ・幼児と楽しめる英語の歌・活動の体験ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・初対面会話の口頭試験【30点】 ・発表体験：自己紹介(ミニブック提出含む) Show and Tell 絵本読み聞かせ 3つの小計【20点】 ※発表内容の出来栄により加点あり ※出席・授業態度は加点対象	
授業方法	対面 ・全体練習・グループ練習・ペアワークなど、多様な形での学習 ・音源・(絵)カード・具体的な教具を使用した学習 オンライン ・ICTの活用			
授業計画	<p>1 講義要綱 ①コミュニケーションKeys ②保育現場での英語教育について ③Hello Song/英語であいさつ ④自己紹介表現 ⑤幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉</p> <p>2 ①バーバル・ノンバーバルコミュニケーション ②自己紹介表現(ミニブック作成) ③幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉・励ます言葉 ④絵本・英語の歌</p> <p>3 ①幼保英語検定 ②フォニックスってな〜に？ ③自己紹介表現練習 ④初対面英会話練習 ⑤幼児の為の英語表現練習ー公園編(単語レベル)</p> <p>4 ①フォニックスの練習 ②自己紹介発表 ③幼児の為の英語表現練習ー公園編(文レベル) ④絵本・英語の歌</p> <p>5 ①世界のLunch+世界の幼稚園 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(単語レベル) ④絵本・英語の歌</p> <p>6 ①Halloweenのお話 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(文レベル) ④絵本・英語の歌</p> <p>7 ①トイレのお話し ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(単語レベル) ④絵本・英語の歌</p> <p>8 ①Multiple Intelligence(多重知能理論) ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(文レベル) ④絵本・英語の歌</p> <p>9 ①保育関係(者)の英語名称と英語圏で働く保育士さんの声 ②Show and Tell ③初対面英会話練習 ④幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(単語レベル)</p> <p>10 ①初対面英会話練習 口頭試験 ②Show and Tell 内容作成+練習(待ち時間) ③幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(文レベル)</p> <p>11 ①Show and Tell 発表 ②子供幸福度ランキング ③絵本・英語の歌 ④総復習</p> <p>12 ①筆記試験 ②絵本読み聞かせ練習 ③世界幸福度ランキング</p> <p>13 ①Christmasのお話 ②絵本読み聞かせ大会(グループ内) ③感想</p> <p>14 中国語</p> <p>15 韓国語</p>			
必須テキスト	English For Use in Nursery Schools			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。読売KODOMO新聞「やってみよう！」共同監修。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 講義	講 師	高見 美恵子	
授業概要	乳幼児期・児童期に必要な効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。			
授業目標	1. コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する。 2. 共感するコーチングと関連する科学的根拠についての知識を習得する。 3. 共感するコーチングを活用しコーディネーション運動を実践する。 4. 立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する。			
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)	
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(10点)、実践案(10点)、実技試験(15点)、振り返りシート(15点)	
授業方法	実技、グループ学習、オンライン授業を含む			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明、授業の進め方の確認)、コーディネーション運動について 2 コーディネーション運動の体験 3 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の重要性と【5つの能力】について 4 【5つの能力】向上のための実践 5 【5つの形式】【遊びの4要素】について 6 【5つの形式】【遊びの4要素】の実践 7 実践技法【5つの共感するコーチング理論】について① 8 実践技法【5つの共感するコーチング理論】について② 9 実践技法【5つの共感するコーチング理論】の実践① 10 実践技法【5つの共感するコーチング理論】の実践②、実技試験グループ分け 11 実技試験に向けた実践案作成① 12 筆記試験 13 実技試験に向けた実践案作成② 14 実技試験と振り返り① 15 実技試験と振り返り②			
必須テキスト	楽しみながら運動能力が身につく！ 幼児のためのコーディネーション運動 明治図書出版株式会社			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。 保育園・地域学習センター・児童館・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座にてコーディネーション運動講師を担当。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義	講 師	酒井 澄	
授業概要	情報に関する知識、情報機器操作の基礎知識を身につける。			
授業目標	情報社会の中でどう生きていくかを考えます。 Office (Word, PowerPoint, Excel) の基礎を身につけます。 その他、インターネットの光と影の部分を知り、自分がどうあるべきか考えます。 保育現場で活用できる映像の作り方、読み聞かせの基礎(絵本の読み方とは異なる)などを身につけます。			
到達目標1	Office (Word, PowerPoint, Excel) の基礎を身につけます。 書類、お知らせを作る。 プレゼンテーションをする。 表計算、グラフを作る。 これらの知識を身につけ、保育に活用できるようにする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(40点) パソコン操作の苦手な人がいますが、これにより評価が下がることはありません。取り組み度を評価します。 協調性(10点)	
到達目標2	情報に関する知識、特にインターネットの知識を身につける。 読み聞かせのこつを知る。 保育映像記録や、遊びとしての映像作りの基礎知識を知る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点) 講義内容に関する筆記試験(40点)	
授業方法	パソコン授業は学校のパソコンを使用していますが、自分のパソコン持ち込み可能です。Macもフォローします。 officeの授業は基礎知識で高度な取組はいたしません。 パソコンが苦手な人でも安心して学べるようにする方針です。 学校のパソコンはパソコン内に作ったデータを保存できません。 授業が次の週に続くとき、途中の工程を保存するために自分のUSBメモリなどを使い保存することを希望します。			
授業計画	1 一人ひとりのコンピュータに対する理解度を確認し、Wordの基礎から始めます。 2 Word 3 Word 4 PowerPoint 5 PowerPoint 6 PowerPoint 7 Excel 8 Excel 9 Excel 10 Excel 11 インターネットの光と影 12 インターネットの光と影 13 本の読み聞かせ(ナレーション技術) 14 試験 15 子供たちと作る映像や、撮影記録の仕方。			
必須テキスト	ありません。			
参考文献	インターネットの光と影ver.7/北大路書房			
担当教員の専門分野等	1974年より映画テレビの制作会社勤務。職種:プロデューサー 担当作品:風の谷のナウシカなど。 2004年より映像制作会社を起業。職種:ディレクター&カメラマン。内容:保育や企業などの記録やプロモーションなど。10			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。			
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士が行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)	
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。			
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成 5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 6.支援における保育士の基本的態度 7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援 8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力 9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携 12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1 14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2 15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ			
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年			
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』一藝社 2020年			
担当教員の 専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科目	保育者論 必修 講義	講師	菊池 一英	
授業概要	保育者の役割について学び、保育の歴史の中で保育士の制度的位置づけを理解する。 また、保育士をめぐる現代的な課題について、深く知り、課題解決の方略についても、模索する。 合わせて、保育者の地域・家庭支援とそのことをめぐる、保育者の連携・協働について考察する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 			
到達目標1	1. 保育者の歴史的役割と先達の保育者から、保育の専門性をめぐる資質・能力を理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(20点)リアクションペーパーの提出(30点)	
到達目標2	実際の保育現場でのビデオ視聴を通して、保育者として専門的知識を生かし、保育場面を考察することができる。 合わせて、年間の保育計画を年齢発達に沿って、立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2. 保育計画の提出(20点)リアクションペーパーの提出(30点)	
授業方法	講義形式、グループワーク討論、ビデオ視聴、			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業の進め方)自己紹介、保育者を目指した理由 2 保育士をめぐる現状とは？5つのギフト 3 保育の歴史と保育者(士)の成り立ち 4 先達の保育者(倉橋惣三)から学ぶ 5 保育者を支える発達論(ポルトマン、スキャモン、リーキー、トマセロ、コーバリス) 6 先達の保育者(津守真)から学ぶ 7 先達の保育者(加用文男)から学ぶ 8 保育者が過ごす一日(ビデオ学習) 9 保育者が子どもを記録する事例研究(ドロケイ遊び①②)※十の姿を探す 10 保育者が身に付ける「身体性」「他者性」「共感性」ファンタジー遊びを通して(ビデオ学習) 11 保育者が経験する行事<運動会>(ビデオ学習) 12 保育者にとって、保護者支援とは何か？(ビデオ学習) 13 ①保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」 14 ②保育者が考える「理想の保育園」「保育計画」 15 グループ発表(感想、評価、まとめ) 			
必須テキスト	特になし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』菊池一英メイト、他に何冊か授業内で紹介します			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。 現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。			
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)	
到達目標2	自他の発表や講義から、自らが目指す支援者像や、「家庭支援」の視点を深めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	学期末まとめシート(30点)	
授業方法	グループワークや発表を伴う講義受講 ※発表に関しては、発表者の進捗により授業回の内容が前後することがある。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物・グループワークの進行等の説明) 2 グループワーク(各自の経験、実習目標に対する振り返り) 3 グループワーク(成功・失敗体験による振り返り) 4 グループワーク(バイステックの7原則による振り返り) 5 グループワーク(施設の役割・機能による振り返り) 6 グループワーク(報告書のまとめ) 7 グループワーク(相互添削) 8 グループワーク(発表資料の作成) 9 発表① 社会的養護施設(児童養護施設):子ども理解 10 発表② 社会的養護施設(乳児院/母子生活支援施設/児童相談所):子ども理解 11 発表③ 児童発達支援センター:多様な家庭とその理解 12 発表④ 障害児入所施設:子どもの生活・生育環境とその影響 13 発表⑤ 障害者入所施設:生涯発達/心の健康に関わる問題 14 発表⑥ 障害者通所施設:ライフコースと仕事・子育て 15 まとめ:施設実習を通じた子ども家庭支援の心理学と自己覚知			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設の施設長として施設実習に携わってきた経験、保育養成施設の施設実習指導に関わってきた経験、保育所や施設実習先の実習担当者と連携してきた経験等をもとに、実務者教員として施設実習を通じた子ども家庭支援の心理学的立場における自己覚知を支援する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康		必修 講義	講 師	藤井 真理
授業概要	子どもの心身を健やかに育むために、また、子ども自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うために、社会的背景の変容に伴って引き起こされる乳幼児の健康問題について把握し、心身の発達に即した生活上の留意点や課題、子どもへの働きかけについて理解することが肝要である。加えて、乳幼児の健康分野に関する有効なアプローチについて知見を広げ、保育現場において発揮し得る実践的指導力を涵養することが重要である。以上を基礎に、本授業では、保育所保育指針における領域「健康」に沿って、子どもの健やかで豊かな育ちについて学ぶ。				
授業目標	1. 乳幼児の健康問題と社会的背景について理解する。 2. 乳幼児の心身の発達に即した生活上の留意点と課題について理解する。 3. 乳幼児の健康分野に関する有効なアプローチについて理解すると共に実践的指導力を涵養する。				
到達目標1	保育所保育指針における領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解し、乳幼児の心身の発達に即した生活上の留意点や課題、子どもへの働きかけについて説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	第7回における中間試験(10点)、第15回における期末試験(30点)、レポート課題(10点)		
到達目標2	乳幼児の健康分野に関する有効なアプローチについて理解し、子ども自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うことを目途とした具体的な働きかけを案出できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	第7回における中間試験(10点)、第15回における期末試験(30点)、レポート課題(10点)		
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。				
授業計画	1 オリエンテーション ・本授業の目的 ・各回の概略 ・到達目標と評価 2 健康とは ・健康の意味 ・身体適正(Physical fitness)と全体適正(Total fitness) ・行動体力と防衛体力 3 乳幼児の身体の発育・発達【オンライン】 ・発育曲線 ・身体各部の釣合と体型の変化 ・身体発育の評価方法 4 子どもの心とからだの異変と対策 ・現代の子どもが抱える健康問題 ・生活リズムの乱れと睡眠障害 ・子どもをとりまく大人の問題 5 子どもの食と健康 ・食欲のメカニズム ・食と心の関係 ・子どもの食生活の変化と健康問題 6 基本的生活習慣の形成と生活観察 ・基本的生活習慣5項目(食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱) ・配慮と援助の方法 ・生活観察 7 中間試験・振り返り ・中間試験 ・第1回～第6回までの振り返り ・第1回～第6回までの補足 8 安全管理と安全教育 ・事故防止と潜在危険 ・交通安全 ・防犯 9 健康分野に関するアプローチ【オンライン】 ・健康で安全な生活の構築 ・子どもへの働きかけと意識の強化 ・具体的な手法と展開の実際 10 模擬指導実践 課題:「基本的習慣5項目」「交通安全」「防犯」について 11 乳幼児の心の発達① ・乳幼児の精神発達 ・情緒と知的能力 ・養育者のメンタルヘルスが子どもに与える影響 12 乳幼児の心の発達② ・虐待の実態 ・児童養護施設の役割 ・被虐待児のケアと社会的バックアップ体制 13 子どもの心を育てる保育 ・個性を引き出す ・自分づくり ・ぶつかりあいと仲間 14 振り返り・レポート作成(提出) ・第1回～第13回までの振り返り ・期末試験対策 ・レポート作成(提出) 15 期末試験 ・期末試験(第1回～第14回までの総まとめテスト) ・期末試験の解説 ・全体の振り返り				
必須テキスト	『保育所保育指針』(フレーベル館)				
参考文献	『保育所保育指針解説』(フレーベル館)				
担当教員の専門分野等	三十有余年に亘り、保育者養成校(短期大学, 専門学校)において勤務。専門は身体表現。一般教育科目では体育理論と体育実技、専門教育科目では保育内容「表現」、保育内容「健康」、保育内容総論、保育教材研究などを担当。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係		必修 講義	講 師	小林 桂子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期にみられる人間関係において、多方面からの支援と自立への導きについて。 ・保育を取り巻く人間関係について、実践を踏まえ、理解を深める。 ・すぐに使えるように！人間関係に関わる手遊び、ゲーム等の技術の習得。 				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 				
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人間関係で、「この問題(経験)から何を学ぶことができるのか(どのような生きる力を身につけられるのか)」という視点で考えることができる。又、保護者との関わり方を考えることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係において、保育現場を想定して考えられているか、授業後の課題の提出(50点) 		
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの人間関係において保育者が「気づく力」「考える力」を身につけることができる。 ・人間関係を築いていく上で「心の自立」「人と関わる力」がなぜ大切なのかを理解し、そのための支援の方法を考え、説明できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やグループワークで自分なりの気づきや考えを記入(30点) ・講義内容に関する筆記試験(20点) 		
授業方法	PowerPoint、資料プリントを使用。グループワーク等。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション授業概要(目標・評価等の説明) 2 人間関係の第一歩は「自分と向き合う」こと 子どもや保護者と向き合うために自分を知ることの大切さを考えます 3 保育における信頼関係について① 「信用の関係」「信頼の関係」から保育で何が大切な関係なのかを考えます 4 保育における信頼関係について② 「ほめる」「叱る」は本当に子どもの心に届いているのか・どのような対応ができるのか考えます 5 「ごめんね」「いいよ」は本当の解決なのか・子どもが、自分や相手の気持ちに合わせた対応を考えます 6 「いじわる」が起きた時にどのような向き合いや対応が大切なのかを考えます 7 クレーム等の事例から悩む保護者にどのような対応ができるか考えます 8 いい子が陥りがちな人間関係を事例をもとに「大切なことは相手にとっていい子であることなのか？」を考えます 9 発達段階で子どもが「相手の立場に置き換えて考えること」の難しさを「ヒーローごっこ(たたかいごっこ)」を事例に考えます 10 子どもの主体性(自らやってみよう!)を生み出す言葉かけを考えます 11 人間関係におけるボードゲーム(SSTにも使われている)の活用から得られる人間関係を考えます 12 その関わりは本当に子どもを尊重しているのか？事例や資料、講師の失敗談から尊重し合う人間関係を考えます 13 子どもの月齢・特性・発達・それぞれに違う人間関係の育ち・今日的課題を考えます 14 人間関係における集団あそびの有効性・試験対策 15 筆記試験(考えて答える記述式・ノート・資料プリントのみ持ち込み可) 				
必須テキスト					
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布します。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 幼稚園、保育、児童センター(大型児童館)、現在は放課後児童支援員、短期大学非常勤教員として勤務。保育の現場に30年以上携わっています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境 必修 講義	講 師	村山 久美	
授業概要	乳幼児を取り巻く環境(自然・モノ・事象・文字、記号・地域・文化)に着目し、これらが子どもの発達に重要な役割を果たすことを理解する。			
授業目標	1. 子どもを取り巻く環境を理解する。 2. 乳幼児の発達に応じた「環境」のねらい及び内容を理解する。 3. 環境構成や保育実践の展開を理解する。			
到達目標1	領域「環境」のねらい、内容を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	保育に関する環境への関心を深め、子どもの発達に即した保育実践を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点) 発表、レポート(30点)	
授業方法	講義(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 子どもを取り巻く環境 3 身近な環境との関わり、感性の育ち 4 モノともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 5 自然ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 6 社会ともかかわりを通して生まれる育ち(学び) 7 領域「環境」のねらい及び内容 8 乳児保育における環境ともかかわり 9 モノともかかわりを支える保育の展開 10 自然ともかかわりを支える保育の展開 11 社会ともかかわりを支える保育の展開 12 領域「環境」と小学校教育のつながり 13 現代的課題と保育 14 子ども・保育者・保護者の育ちあい、まとめ 15 試験			
必須テキスト	ミネルヴァ書房『保育内容「環境」』			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『神奈川県保育士実技講習会 言語表現』テキスト執筆。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・言葉		必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ、吉田 裕子
授業概要	保育内容演習・言葉(該当6回) 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9回)				
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> <p>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸)・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりの特徴について理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・竹島孝昭)</p>				
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点		
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出席18点(3点×6回)、毎回の課題・感想24点(4×6回)、態度8点		
授業方法					
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:佐藤めぐみ</p> <p>2 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:佐藤めぐみ</p> <p>3 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</p> <p>4 吉田先生①オリエンテーション 保育内容【言葉】とか何か 愛着形成について</p> <p>5 吉田先生②言葉の経験とわらべうた</p> <p>6 吉田先生③伝わる言葉、伝わらない言葉</p> <p>7 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出</p> <p>8 吉田先生④気になるこ 言葉の遅れがある子どもと保育内容と支援方法やグッズの紹介</p> <p>9 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:江花志乃 課題提出</p> <p>10 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:近藤千春</p> <p>11 吉田先生⑤文字の取り組みについて 実践例と言葉遊び実践</p> <p>12 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出</p> <p>13 吉田先生⑥まとめ 言葉がけの大切さ</p> <p>14 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:江花志乃</p> <p>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:佐藤めぐみ</p>				
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	<p>吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者</p>				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現		必修 講義	講 師	竹田 えり
授業概要	手遊び・歌遊び・リズム遊びなどを通じて子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。様々な応用を考え、表現の幅を広げていく。劇遊び、エプロンシアター、パネルシアターなどの演技バリエーションも学び実践する。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場면을想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	教育実習・就業先等で即実践できる歌遊びのレポーターを広げ、現場で幅広く対応できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対する評価(方法及び配点) ◆教科書やネットなどから新しく学んだ遊びを6作品以上、レポーターとして習得すること。 自作の創作あそびも歓迎します。 授業への取り組み+授業時間内での課題提出(45点)+オリジナルの遊びなど創意工夫のある取り組み(5点)=合計(50点) 意欲的・積極的な取り組みを期待し、評価します。		
到達目標2	具体的な保育場면을想定し、常に元気な明るい表情と声で子どもと向き合うことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標2に対する評価(方法及び配点) ◆どんな場面でも積極的に明るく笑顔で人前に立てるように意識し、授業内での発表や実技試験での表現力を通して評価する。実技試験(30点) ◆毎回の授業での発表では、グループ内で互いに協力しながら、工夫を凝らした表現を行う姿勢を重視する(20点) 計50点 到達目標1+2 合計 100点		
授業方法	実践の繰り返しを重視。教科書や参考文献などの歌遊び・劇遊び・パネルシアター等を学び表現力をつける				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 2回目より、3～13回の内容を複合的に取り入れながら進めるが、各回の主題に応じて柔軟に組み合わせる。 3 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【1】 4 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【2】 5 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【3】 6 色々な手遊び・歌遊び リズム遊び【4】 7 わらべうた ・手話ソング 8 タオルあそび 9 読み聞かせ 表現方法 朗読のバリエーション 10 エプロンシアター・てぶくろシアター 11 パネルシアター・ブラックパネルシアター・ホワイトボードシアター 12 劇遊び・オペレッタ 表現指導方法 13 劇遊び・オペレッタ(衣装作り・実演) 14 実技試験 15 総括 振り返り 卒業ソングなど				
必須テキスト	「あつまれハート」メイト社				
参考文献	CD「ハートキラキラ」「ハートハッピー」「ふれあいタオルあそび」全て図書室で利用可能。				
担当教員の専門分野等	長年にわたり保育士向けのセミナーや研修会で講習指導。手遊び・歌遊び・劇遊び・パネルシアターを研究。オペレッタ「いつまでもとどち」「北風と太陽」等 多数出版(メイト社)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I		必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本土養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)				
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本土養成講座科目】 「認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうえちひろ・山田花菜) 以下、文字数に制限があり未記入。</p>				
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本土養成講座科目】認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本土養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	<p>1 4/8(火)5限【認定絵本土養成講座】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:中村</p> <p>2 4/15【認定絵本土養成講座】絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村</p> <p>3 4/22 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>4 4/29【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代</p> <p>5 5/13(火)[乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>6 5/20【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:中村</p> <p>7 5/27【認定絵本土養成講座】絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:中村</p> <p>8 6/3 休講→補講日未定[乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ オンライン</p> <p>9 6/10【認定絵本土養成講座】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚けんじ</p> <p>10 6/17【認定絵本土養成講座】絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:中村</p> <p>11 6/24 課題作成 担当:中村 オンライン</p> <p>12 7/1【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ</p> <p>13 7/8【認定絵本土養成講座】絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:中村</p> <p>14 7/15【認定絵本土養成講座】心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>15 7/22【認定絵本土養成講座】さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:横山</p>				
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト				
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本土科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	<p>【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本土養成講座担当講師】 ○中村:絵本をめぐる活動に精通した者/絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうえちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けんじ:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的知識を有する者など ○田部井佳代:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下文字数に制限があり未記入。</p>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %	

2025年度 講義要綱

科 目	障害児保育 必修 講義	講 師	今泉 岳雄	
授業概要	障害児保育を支える理念や各障害の特性を理解し、保育現場やその他の場において、障害児やその保護者をどのように支援していったらよいかを学ぶ。			
授業目標	①障害児保育を支える理念を身につける。 ②各障害の特性や支援方法を理解する。 ③障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。			
到達目標1	障害児保育を支える理念を身につけ、障害児やその保護者を援助するための指導計画を作成できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
到達目標2	各障害の特性や支援方法を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
授業方法	講義、映像視聴、グループワーク			
授業計画	1 障害の捉え方と障害児保育の歴史 2 障害児保育の基本 3 発達障害の理解と支援① 4 発達障害児の理解と支援② 5 発達障害児の理解と支援③ 6 障害児を持つ保護者や家族に対する支援 7 知的障害児の理解と支援 8 肢体不自由児の理解と支援 9 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 10 その他の特別な配慮を要する子どもや保護者の理解と支援 11 てんかんの理解と支援 12 知的に高い自閉症者の映像視聴 13 言語障害・病弱・虚弱・食物アレルギーを持つ子どもや保護者の理解と支援 14 障害児保育を支える記録・評価・支援計画 15 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題・まとめ			
必須テキスト	各授業前にteamsファイルに掲示する資料を読んでおくこと			
参考文献	「障害児保育・・・子どもとともに成長する保育者を目指して・・・」藤永保監修 阿部五月他著 萌文書林 授業中に必要に応じて資料配布			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2025年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 講義		講 師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点	
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。 2 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。 3 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通して自分を知る。 4 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援、支援のプロセス、エコマップの作成等について学ぶ。 5 コミュニケーションのロールプレイ体験と保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。 6 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。 7 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。 8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。 9 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。 10 虐待の実態と子どもに及ぼす影響、対応について学ぶ。 11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。 12 子どもの知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。 13 子どもの分離不安障害、緘黙、強迫障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。 14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。 15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。 			
必須テキスト	各授業前にteamsファイルに掲示する資料を読んでおくこと			
参考文献	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規 授業中に適宜紹介、配布			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2025年度 講義要綱

科目	保育実践演習 必修 演習	講師	廣瀬 優貴	
授業概要	保育に関する興味のある様々なテーマについて、幅広い視野をもって、主体的に関わる姿勢を養う。興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。テーマ設定について、他者に根拠を明確に示し、伝える能力を身に付ける。また、ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら問題の解決の糸口を見つけ出していく方法を体験的に学ぶ。			
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。			
到達目標1	興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート等の提出物(10点)＋発表(40点) 提出物は期限厳守。発表への参加は必須事項。	
到達目標2	他者に伝える力を身に付けると同時に、他者の意見を取り入れながら問題解決をする方法を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業参加、中間提出物も評価に加える。少人数のグループディスカッションへの参加、発表者に対するリアクションペーパーの提出など授業への意欲的な姿勢も評価する。(50点)	
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導を交え、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。			
授業計画	1 オリエンテーション～保育実践演習の進め方～ 2 テーマの設定①～関心を明確にする～ 3 テーマの設定②～テーマを決める・関心の深め方～ 4 研究のスタイル～調査・分析・考察の方法～ 5 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成① 6 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成② 7 中間報告及びディスカッション① 8 中間報告及びディスカッション① 9 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備① 10 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備② 11 発表① 12 発表② 13 発表③ 14 発表④ 15 発表⑤及びレジュメの取りまとめ、総評			
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する			
参考文献	特になし 適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、長年保育所での実務経験			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	30 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び 選択必修 講義	講 師	荒巻 シヤケ	
授業概要	講師の専門のあそび歌を中心にしながら、布・紙など身近な物を使った遊び、アナログゲーム、パネルシアターなど様々な遊びを実際に体験する中で、遊びについてじっくり考えたり、グループワークを通して視野を広げていく。 また、あそび歌・パネルシアターにおいては、学んだことを実践につなげられるように発表の機会を設けて、実践力も身につけていく。 この授業を通して、子どもと遊びの世界の面白さを一緒に共有しましょう。			
授業目標	①大人が主導するのではなく、子どもと相互にやり取りして一緒に創るあそび力を身につける。 ②一つの遊びをいろんな角度で見て、遊びの視野を広げていく。 ③パネルシアターの世界を体験し、実際に演じる力を身につける。			
到達目標1	授業内で自ら積極的に遊びに参加しようとする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	遊びへの積極度 30点 グループ討議への積極度 20点	
到達目標2	授業内容を理解し振り返ったり実践しようとする。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表への積極度 30点 振り返りシート提出 20点	
授業方法	○授業毎のテーマに合わせて実際に遊びながら学ぶ。 ○講師の実践経験談から、子どもと遊びの世界を知る。			
授業計画	<p>1 授業の内容説明。 自己紹介。 あそび歌で遊んでみる。</p> <p>2 一回目の復習をしながら、手遊びについて遊びながら考えたり、グループで創作する。</p> <p>3 オンラインでのあそび歌を体験する。 また講師の実践エピソードからも考える。</p> <p>4 ①～③で学んだことを活かしながら、グループごとに自分たちの遊びやすいあそび歌を見つける。 また、次回の発表に向けて、練習もする。</p> <p>5 ①～③で学んだことを活かして、実際にあそび歌でのやり取りを実演発表する。</p> <p>6 布を使ったあそび歌や伝承の布遊びに触れながら、身近な物で工夫して遊べることを知る。</p> <p>7 昔懐かしい折り紙や紙を使った簡単なおもちゃを作って実際に遊びながら、紙の遊びの特性を知る。</p> <p>8 日本や世界の様々なアナログゲームで遊び、その面白さを体験する。</p> <p>9 子どもの言葉の言い間違い、子ども達と遊んでいるとでてくる「やりたい」「やりたくない」という言葉。 あそび歌の実践から、そんな子どもの言葉の魅力や奥深さについて考えます。</p> <p>10 パネルシアターとはそもそもどんな教材?という基本的なことからまず知ろう。 講師のパネルシアターの実演を見て体験しよう。</p> <p>11 3つの課題作品の中からそれぞれが選んだ作品を作ってみよう</p> <p>12 グループに分かれて、自分の作ったパネルシアターを演じる練習をしてみよう。 発表に向けてグループ決めと話し合い。</p> <p>13 あそび歌とパネルシアターをそれぞれ組み合わせて実演発表してもらうのでその準備日です。</p> <p>14 発表に向けて準備を進めましょう</p> <p>15 あそび歌とパネルシアターについて学んだことを活かしながら、グループごとに発表してもらう。</p>			
必須テキスト	教科書はありませんが、パネルシアターのキットを授業内で別途購入してもらいます。価格は2000円程度です。			
参考文献	必要がある場合は授業内で紹介、もしくは資料として配布します。			
担当教員の 専門分野等	保育現場で正規保育士として6年の実務経験。 保育シンガーソングライターとして、あそび歌を通しての実践経験15年。 年間に180公演ほどの園であそび歌ライブを実施している。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 講義	講 師	高尾 優	
授業概要	子どもの食と栄養の講義で学んだことを基礎として実際に献立の作成や調理を行う。乳児期から幼児期にかけて食事の形態がどのように変化していくのか、どのように調理するのか実習を通して学習する。 幼児の食の問題点について考え、食育を計画し、実施する。			
授業目標	1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について実践する。 2. 保育における食育について考え実践する。			
到達目標1	子供の食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食が作ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出 (50点)	
到達目標2	子供の食の問題点について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成および発表 (50点)	
授業方法	子どもの成長の段階に合わせた調理実習。 食育の計画、媒体の作成、発表を行う。			
授業計画	1 オリエンテーション 栄養計算と献立作成について 2 献立作成実習 栄養バランスの取れた食事について考え献立を作成する 3 調乳、離乳食の説明 4 調乳実習 5 離乳食実習1 (5～6か月、7～8か月) 6 離乳食実習2 (9～11か月、12～18か月) 7 幼児期の食の問題点と改善方法について考える 8 食の問題点を改善するための食育を計画する 9 幼児食について考える 10 幼児食実習 11 食育媒体の作成を行う 12 アレルギーのある子どもの食事について考える 13 アレルギー食実習 14 食育媒体を作る・食育発表 15 食育発表			
必須テキスト	1年次の子供の食と栄養で使用したテキスト			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	小児栄養学(食育・食物アレルギー)			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏 選択必修 講義	講 師	上田 亜津子、島内 亜津子、白鳥 久代、高山 美帆、渡辺 容子	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。前半7回をクラス全体授業とし、歌遊びや合唱の授業45分、その後A52教室に全員で移動し、ピアノのレパートリーのための自主練習に充てます。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。6月からの後半8回は、小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン(オンライン授業も含む)を行います。前半7回で自ら練習してきた内容をさらに深め、レパートリーを増やして保育実習に向けて実践力を養っていきましょう。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加(30点)・自主練習への能動的な取り組み(20点)	
到達目標2	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲弾くことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(30点)・実技試験(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の授業の内、前半7回を歌遊び・合唱の全体授業、後半8回を小グループでのピアノを中心とした個人レッスン(オンライン授業も含む)に設定し受講していく。 ・基本的に15回目を実技試験とし、弾き歌い2曲を演奏発表する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 全体授業。オリエンテーション。15回の配分、進度表の書き方等の確認。45分程で全体授業を終了し、A52教室へ全員で移動し、後半は個人練習を中心とし、適宜、担当講師による個人レクチャーを行う。 2 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。 3 全体授業。以下同様。 4 全体授業。以下同様。 5 全体授業。以下同様。 6 全体授業。以下同様。 7 全体授業。以下同様。 8 ピアノ個人レッスン。初回ながらオンライン授業のため、対応できる電子ピアノ等の準備を必ず事前に完了しておきましょう。 9 個人レッスン 10 個人レッスン。 11 個人レッスン 12 個人レッスン。 13 個人レッスン。 14 個人レッスン。実技試験リハーサル等。 15 実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。) 			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育教材研究 選択必修 講義	講 師	加藤 ふじこ	
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。			
授業目標	子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。			
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作 2 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵 3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン) 4 お面づくり:画用紙等 5 衣装づくり:ポリ袋を使う。 6 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔 7 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作 8 9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン) 10 素材研究:ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える 11 レッジョの実践②:光を用いた作品制作 光の絵本 12 お花紙を使った絵画製作 13 紙の加工:はらぺこあおむし 14 割ピンを使った動く工作 15 フィンガーペイントによる絵画制作 			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等	かとうふじこ:絵本作家、イラストレーター			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	浅井 信史
授業概要	幼児期の心身の育ちの中で身体表現遊び(幼児体育)がどのように貢献できるかを学びます。健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とはどのような言葉の定義があるか学びます。			
授業目標	1.子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2.保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	①遊びの重要性を理解する。 ②遊びをデザインできるようになる ③遊びのカリキュラムを構想できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	意欲・関心・態度(20点) 提出物(10点) 授業内の発表(20点)	
到達目標2	①様々な運動遊びを実際に身体を動かして経験し、集団の前でプレゼンテーションができる。 ②身体表現遊びに関する言葉の概念規定を、自分なりに説明ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加度(10点)最終レポート(20点)出席率(20点)	
授業方法	講義形式、グループワークトークキング(GW)、DVD視聴、レポート、実技指導で様々な学習体験をする。			
授業計画	1 幼児の身体表現遊びについて概観する。 2 幼児期の身体発達の特徴について身体活動の内容に注目して概説する。 3 幼児期の身体発達の特徴について体力に注目して概説する。 4 幼児期の運動遊びと学力の関係について概説する。 5 幼児期の運動遊びと健康の関係について概説する。 6 かけっこ遊びを体験しながら活動の工夫について考える。 7 マット遊びを体験しながら活動の工夫について考える。 8 遊びのデザインについて時間の工夫に注目して考える。 9 遊びのデザインについて仲間と空間の工夫に注目して考える。 10 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 11 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 12 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 13 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 14 模擬保育を行い、より良い指導を考える。 15 模擬保育を振り返り、まとめ、より良い保育を行う支援について考える。			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	保育所保育指針解説書			
担当教員の専門分野等	【浅井信史先生】 幼児体育指導員23年間勤め、現在学校法人菊地学園認定こども園しらこぼと幼稚園園長			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	目黒 祥元
授業概要	保育における教材等の活用及び制作と展開を実習する 制作した作品は提出いただき、評価資料とします。構内の壁面装飾にも使用します。			
授業目標	1年で学んだことを基礎にしつつ、幼児造形の枠にとらわれない教材や技術も取り入れて実習し応用力を養う			
到達目標1	基礎技術を基にして発展的な取り組みができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出ができています(30点) 提出作品の評価(20点)	
到達目標2	課題に自分なりの工夫を、どのように落とし込んでゆくかを楽しめるようになる 準備から片付けまで含めて、造形遊びの大切な取り組みであると考えて必要な配慮ができるようになる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	制作の展開を考えて必要な準備と片付けができています(20点) 課題制作や壁面装飾などにおいて、主体的に取り組みができています(30点)	
授業方法	制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません 課題作品は、授業内に提出してください *状況により授業内容の予定は、変更する場合があります			
授業計画	1 後期の授業の進め方と内容の説明、準備など 2 回目から実習する版画の説明と構想 2 インクで刷る版画を体験しその作品を使った壁面装飾を製作する 3 オンライン 4 インクで刷る版画を体験しその作品を使った壁面装飾を製作する 5 ダンボール、各種用紙、パルプ粘土を主体に、ごっこ遊びを想定したお店を作る 6 7 8 9 オンライン 10 11 モダンテクニックで出来上がった作品を素材として使い、制作する 12 13 14 墨汁ではなく墨をすところから体験して絵を描く 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等	美術家			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2025年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育実習指導Ⅱ 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・課題を期日内にきちんと提出することができる。 ・責任実習全日指導計画を書けるようになる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験「責任実習全日指導計画」(30点)、課題提出(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を責任を持って行うことが出来る。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育の準備・発表(30点)、模擬保育指導案(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 主活動の指導計画 保育実習ⅠとⅡの違いを知る 3 指導計画について 4 個人票の下書き 5 保育現場職員とのワークショップ 6 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 7 模擬保育に向けて②(教材準備) 8 模擬保育に向けて③(導入の意味) 9 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 10 試験と模擬保育の発表について確認 11 試験「責任実習全日指導計画」 12 模擬保育実践1 13 模擬保育実践2 14 模擬保育実践3 15 確認事項等(中間評価について、心構え) 			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の 専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅲ 選択必修 講義	講 師	東郷 結香	
授業概要	1年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。			
授業目標	1. 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する 2. 対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ 3. 自らの課題を明確にする			
到達目標1	保育実習Ⅰについて整理し、他者に発表を通して伝えることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習報告(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
到達目標2	保育実習Ⅲに向けた、自らの目標、課題の整理ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの目標、課題の言語化(20点)、対象者・支援特徴の整理(30点)	
授業方法	・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ			
授業計画	1 授業概要、授業の進め方、目標、評価等の説明 2 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 3 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 4 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 5 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 6 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 7 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 8 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 9 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 10 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 11 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 12 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 13 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 14 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 15 実習準備の仕上げ。 実習への備えを万全なものとする。			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業内で適宜示す			
担当教員の 専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %